

DNP

株主通信

DNP Report Vol.91

(証券コード：7912)

特集：有機ELディスプレイの製造を支えるメタルマスク



有機ELディスプレイのイメージ



代表取締役社長

北島義俊

株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

✦ 中長期的な企業価値向上に向けて

私たちは中長期的に企業価値を高めていくため、「人と社会をつなぎ、新しい価値を提供する」という企業理念を掲げています。この言葉には、社会課題の解決につながる“新しい価値”をつくり出すという決意を込めています。私たちを取り巻く経営環境は激しく変化していますが、単にそれに対応するだけでなく、DNP自身が“変化そのもの”を生み出していかなければならないと考えています。

その実現に向け、「P（印刷）&I（情報）」という私たちの強みを活かして革新的な新しい価値を創出していく「P&Iイノベーション」を推進しています。

❖ 成長領域を中心とした事業の拡大による価値の創出

事業ビジョン「DNPグループビジョン2015」では、私たちが目指す分野として「知とコミュニケーション」「食とヘルスケア」「住まいとモビリティ」「環境とエネルギー」という「4つの成長領域」を明確にしました。これは、国内外の社会課題を洗い出し、「P&Iイノベーション」によって、その解決に向けた新しい価値を生み出していく事業領域として選定したものです。

2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」ではこれらの社会課題が整理されており、その中には私たちが「P&I」の強みを活かすことで解決に寄与できるものが多くあります。例えば、高度な情報セキュリティの確保や次世代教育の充実、安全で安心な食生活、あらゆる生活空間での健康で快適な暮らし、環境やエネルギーの負荷低減や多様性の尊重など——。こうした課題が解決されている未来の姿を“あたりまえ”にしていきたいと私たちは考え、その実現に挑戦

していくことで、生活者や社会にとって“欠かせない存在”であり続けたいと考えています。

❖ 国内そして世界に向けた価値の提供

私たちがつくり出す新しい価値は、国内の生活者の厳しい目で鍛えられ、より高められていきます。その価値は世界でも求められています。DNPが海外で事業を展開するにあたっては、それぞれの地域の特性やそこで暮らす人々のニーズに、きめ細かい対応をしています。現在は欧米やアジアなどの16の国と地域に28の営業拠点と16の製造拠点を展開しています。

その展開の例としては、ICカード関連でベトナムとインドネシアの大手カードメーカーとそれぞれ業務・資本提携をしており、東南アジア地域での競争力強化を図っています。包装関連では、インドネシアとベトナムの拠点を活かし、東南アジア各国にも事業を拡げるとともに、グローバル企業への対応を強化していきます。また、写真プリント用部材等を提供するイメージングコミュニケーション

事業は海外売上高比率も高く、写真プリントのニーズが高い北米市場などで、製造拠点の増強を図りながら新規顧客の開拓を進めています。

エレクトロニクス部門では、世界市場で圧倒的なシェアを獲得している有機ELディスプレイ用メタルマスクの事業拡大に努めるとともに、液晶カラーフィルター関連の技術供与も含めた海外企業との提携などを展開しています。また、中国でフォトマスクの製造・販売を行う合併会社を米国のPhotronics, Inc.と設立し、2018年12月の量産開始を目指すなど、さまざまな施策を推進しています。

あらゆる構造改革による価値の拡大

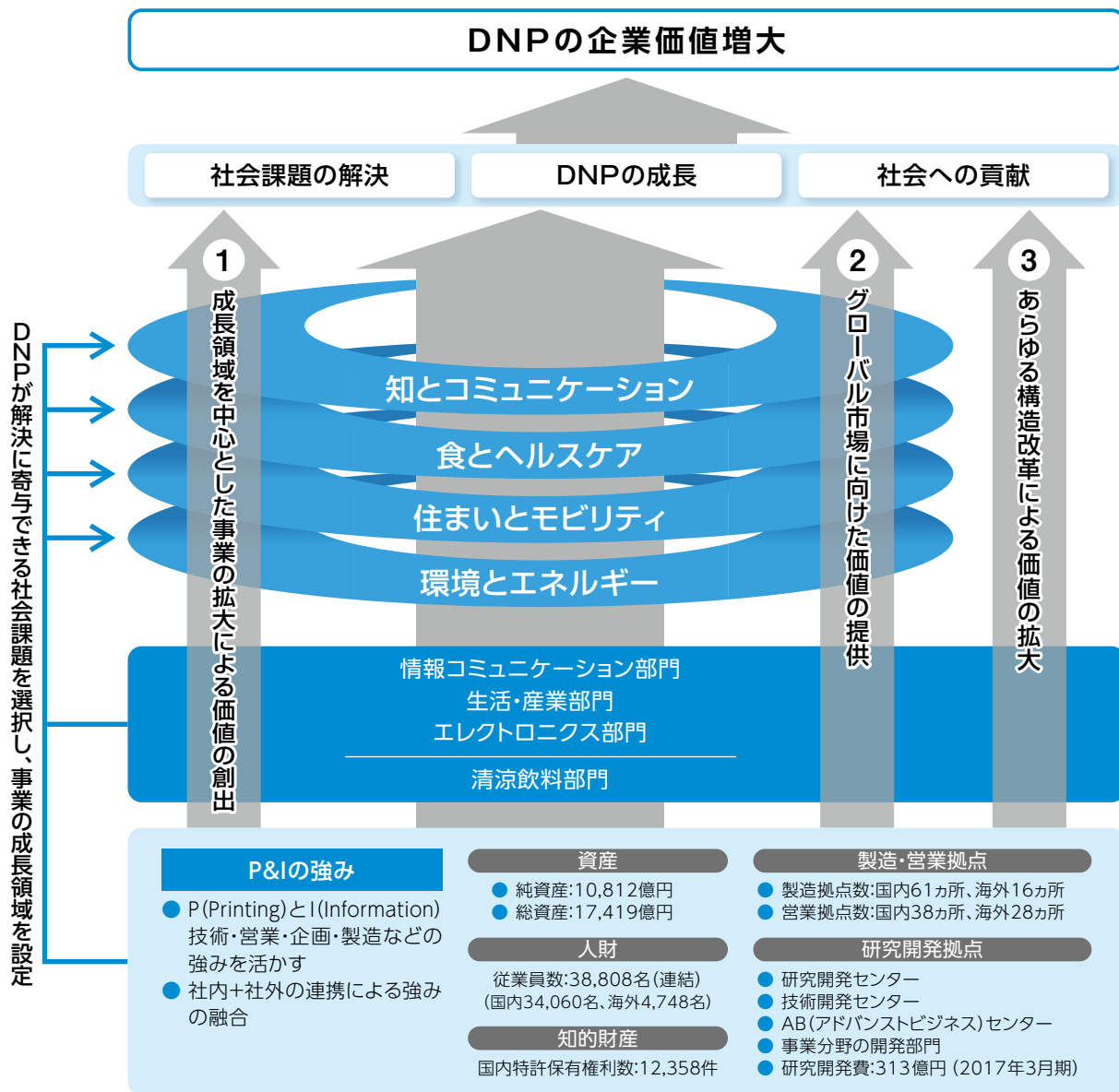
私たちは、事業の拡大やコスト削減など、企業価値の向上につながるあらゆる構造改革に力を入れています。

例えば2016年10月、マーケティングや情報メディアの企画・制作などに関わるグループ3社を統合して、株式会社DNPコミュニケーションデザインを設立しました。そして2017

年4月には、情報関連のシステム開発・運用の強化を目指して株式会社DNPデジタルソリューションズを発足させました。これらの新体制によってマーケティングと決済サービスの融合を進め、ICT（情報通信技術）やBPO（Business Process Outsourcing）の事業分野での競争力を強化して、新たなビジネスモデルを構築していきます。

また、収益性改善に向けたコスト構造改革にも継続して取り組んでいます。例えば、全国の製造体制を一元的に管理する最適生産の実現や、デジタル技術を用いたスマートファクトリーの考え方にに基づき、生産効率の向上を目指す生産革新の取り組みを推進しています。

私たちDNPは、すべてのステークホルダーの皆様にご信頼していただけるよう、中長期的に持続可能な成長を目指し、企業価値の向上に努めていきます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。



(2017年3月末時点)

次世代製品として期待されてきた有機ELディスプレイは今、高性能スマートフォンで世界的に採用が進んでいます。スマートフォン向け有機ELパネルの全世界の出荷枚数は、2016年の3.9億枚から2024年には9億枚にまで増加するものと予想されています(調査会社IHS調べ)。

中小型有機ELディスプレイの心臓部の製造にはメタルマスクというキーパーツが不可欠であり、DNPはこのメタルマスクの事業の拡大に注力しています。DNPの当事業の特長と成長に向けた取り組みについて、ファインオプトロニクス事業部を担当する土屋 充が紹介します。

ファインオプトロニクス事業部

執行役員・事業部長 **土屋 充**

みつる



Q:有機ELディスプレイの特長について教えてください。

土屋:有機ELディスプレイは、自ら発光する特殊な有機物を使用しており、液晶ディスプレイと比べると消費電力が少なくなります。また構造もシンプルにでき、画面のコントラストが高く、色再現性に優れるなどの高い性能を発揮します。

さらに、薄くて軽く、曲げたり丸めたりという加工にも対応しやすいため、次世代のディスプレイとして注目されてきました。近年はすでにスマートフォンでの採用が広がっています。

Q:有機ELパネルの製造に使用されるDNPのメタルマスクについて教えてください。

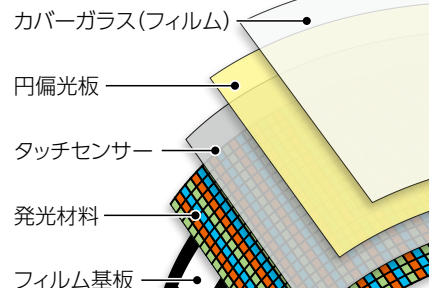
土屋:光の三原色(RGB:赤緑青)の有機材料を画素ごとに基板上に微細に形成する製造工程で、DNPのメタルマスクが使われています。

メタルマスクは、微細な穴を精密に配置した薄い金属板です。真空状態の装置の中で有機材料を蒸発させ、ガラスやプラスチック等の基板上に定着させて薄膜を形成する“蒸着”という工程で、RGB各色の塗り分けのためにメタルマスクが使われているのです。

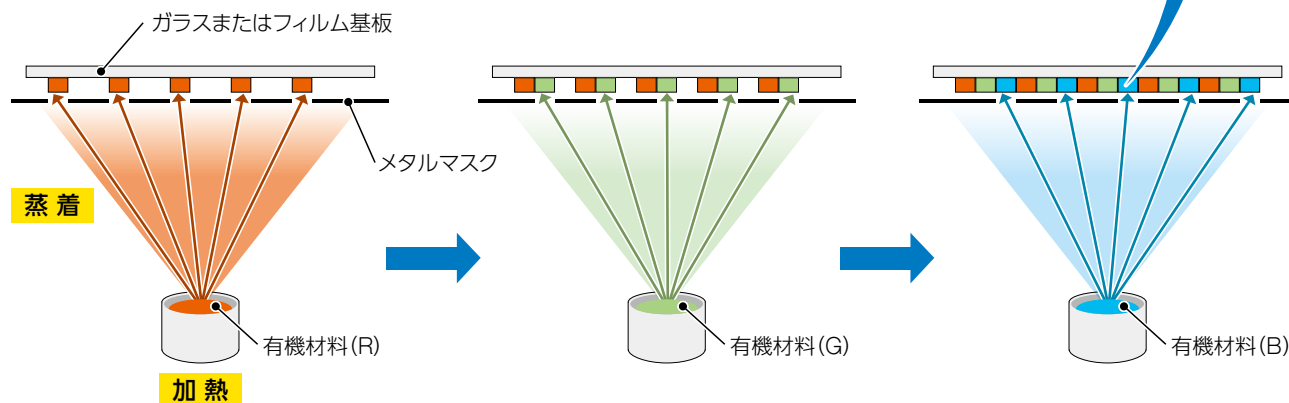


有機ELスマートフォン(イメージ)

有機ELパネルの構造例



蒸着工程の模式図



Q: どのような強みがありますか。

土屋：DNPは独自のフォトリソグラフィ技術やエッチング技術を活かし、2000年頃にメタルマスクの開発に着手し、現在ではスマートフォン向けに世界のトップシェアを獲得しています。高精細化や大画面化が進むモバイル機器用では、RGBの有機材料を精密かつ正確な位置に付着させることが、鮮やかな映像を映し出すために重要です。そのための蒸着プロセスは、有機ELパネルの製造

工程の中でも難しく、メタルマスクにも高い精度が求められます。

DNPはメタルマスクに関連して、材料や製造方法、製品に関する特許やノウハウを幅広く保有しており、優れた技術開発力や、高品質・高精度な製品を安定して供給する力などが高く評価されています。



Q: 今後の成長に向けた取り組みは。

土屋：市場の急速な拡大に対応したパネルメーカーの生産能力アップによって、メタルマスクの需要も高まっていくと予想しています。DNPは、メタルマスクについて2020年までに約60億円の設備投資を継続的に実施し、

製造能力を高めていきます。また、スマートフォン向けの同製品で高い世界シェアを持つ強みを活かし、さらなる高精細化にも対応して、2020年には年間300億円の売上を目指します。

有機ELディスプレイをさらに見やすくするDNPの光学フィルム

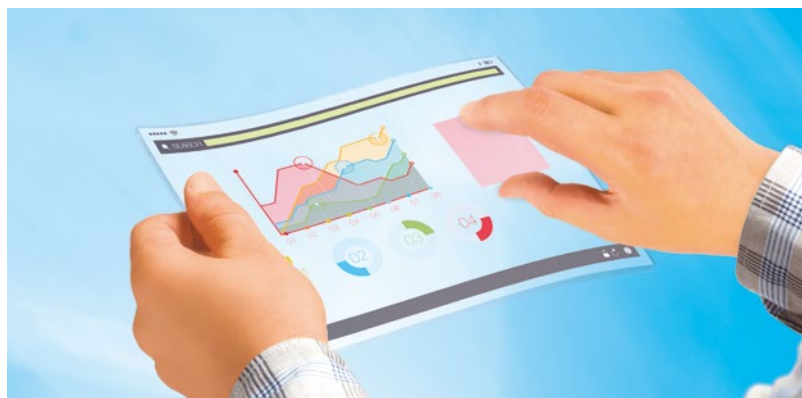
DNPはメタルマスクのほか、有機ELディスプレイ用の光学フィルムなども開発・製造・販売しています。

DNPが長年培ってきた精密塗工技術や材料技術を掛け合わせ、液晶材料をフィルム上に均一に並べる「液晶コーティング技術」を2000年代初めから独自に磨き続けてきました。そして最初に3D液晶テレビ用の特殊フィルムの製造に成功し、その後、有機ELディスプレイの登場とともにこの技術を進化させ、有機ELディスプレイ用「位相差フィルム」の完成に結び付けました。

この「位相差フィルム」は、太陽光などの反射に

よる画面のコントラスト低下を防いだり、斜め方向から見る時の色の变化を抑えたりする機能を持っています。すでに、世界的なブランドのスマートフォンやテレビにも採用されています。

有機ELディスプレイは、高い色再現性に加え、曲げたり丸めたりできるフレキシブルな特性を活かした用途開発も期待されています。「位相差フィルム」をはじめとするDNPの各種光学フィルムは、柔軟性も高く、さまざまな形状の多様な有機ELディスプレイに対応できます。このような“未来のディスプレイ”の実現に向けて、DNPは“新しい価値”を提供していきます。



フレキシブルな特性を活かした未来のディスプレイ(イメージ)

第1四半期決算のご報告 (平成29年4月1日から平成29年6月30日)

連結業績の概況

(単位:億円)

科目	当第1四半期	前第1四半期
売上高	3,437	3,498
営業利益	82	59
経常利益	118	89
親会社株主に帰属する 四半期純利益	76	7

連結業績の予想(平成30年3月期通期)

(単位:億円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
14,200	350	400	260

1株当たり当期純利益85円81銭

DNPIは、「DNPグループビジョン2015」に基づき、「知とコミュニケーション」「食とヘルスケア」「住まいとモビリティ」「環境とエネルギー」という4つの成長領域を軸として、印刷(Printing)と情報(Information)の強みを掛け合わせた「P&Iノベーション」による新しい価値の創造に注力し、事業拡大に努めました。また、事業部門やグループ会社の再編・統合などを進め、競争力強化に向けた構造改革に取り組みました。

当第1四半期連結累計期間のDNPの連結売上高は3,437億円(前年同期比1.7%減)、連結営業利益は82億円(同38.9%増)、連結経常利益は118億円(同32.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は76億円(同883.8%増)となりました。

部門別の状況

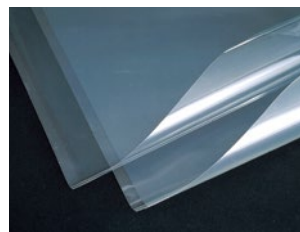
印刷事業



ICカード



各種パッケージ



液晶ディスプレイ用反射防止フィルム

清涼飲料事業



清涼飲料

情報コミュニケーション部門

売上高	1,942億円
前年同期比	4.5%減
営業利益	50億円
前年同期比	0.5%増

ICカードや販促POPなどは堅調に推移しましたが、出版関連などが伸び悩み、減収・増益となりました。

生活・産業部門

売上高	937億円
前年同期比	0.8%減
営業利益	26億円
前年同期比	16.7%減

生活空間関連や産業資材関連は順調でしたが、包装関連が伸び悩み、売上が前年を下回りました。

エレクトロニクス部門

売上高	448億円
前年同期比	9.3%増
営業利益	63億円
前年同期比	144.9%増

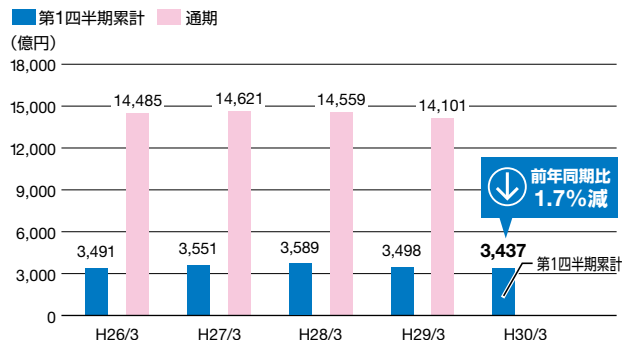
光学フィルム関連や半導体製品用フォトマスクの売上がいづれも前年を上回り、増収・増益となりました。

清涼飲料部門

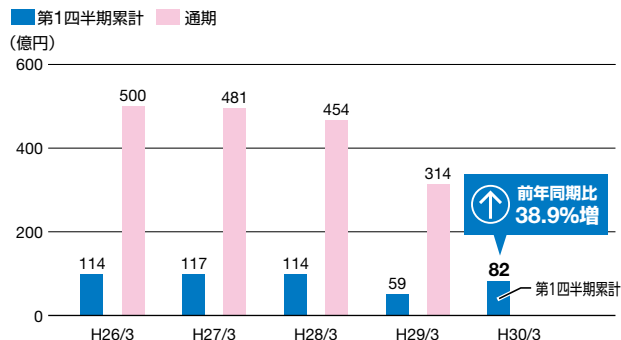
売上高	121億円
前年同期比	0.9%減
営業利益	0.7億円
前年同期比	44.9%減

「コカ・コーラ」や無糖茶飲料は増加しましたが、ミネラルウォーター関連が減少し、売上が前年を下回りました。

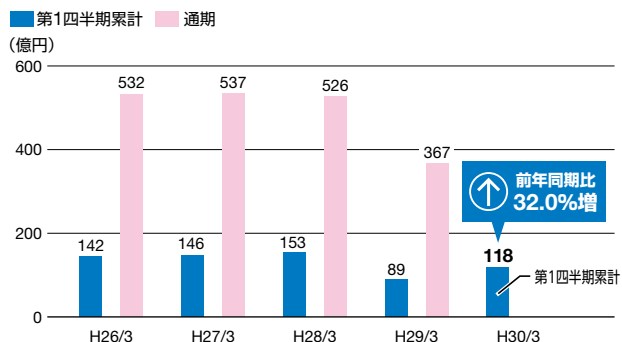
連結売上高



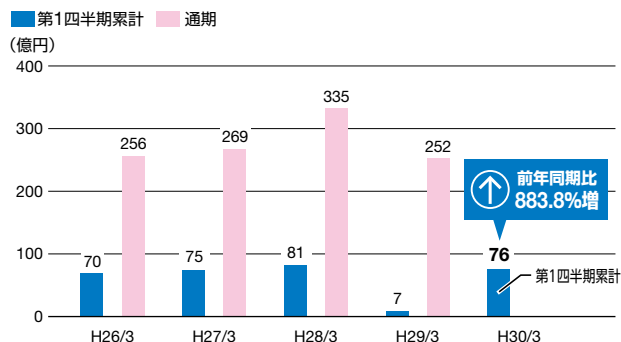
連結営業利益



連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



連結貸借対照表(要約) (単位:億円)

科目	当第1四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末
資産	17,146	17,419
流動資産	7,042	7,371
固定資産	10,103	10,047
負債	6,373	6,606
流動負債	3,929	4,151
固定負債	2,443	2,454
純資産	10,773	10,812

配当予想(1株当たり配当金)

	第2四半期末	期末	年間
平成30年3月期 (予想)	16円00銭	32円00銭*	—
平成29年3月期 (実績)	16円00銭	16円00銭	32円00銭

*株式併合による(P13参照)

【2017年8月24日発表】 GPIFの新たなESG指数の全ての構成銘柄にDNPが選定

公的年金を運用する年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が、環境(Environment)・社会(Social)・企業統治(Governance)を重視して経営している企業を選んで投資する“ESG投資”の運用を開始するにあたり、新たに採用した3つのESG指数の全ての構成銘柄にDNPが選定されました。2017年7月現在、全ての指数に選定された日本企業は66社で、印刷業界ではDNP 1社のみです。

ESGに配慮した投資は、リスク調整後のリターンを長期的に改善する効果があると期待され、投資額の大きい機関投資家等からの関心が高まっています。GPIFのESG指数は、ESG全般を考慮した統合型指数の「FTSE Blossom Japan Index*¹」と「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数*²」、および女性活躍に着目したテーマ型指数の「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)*²」です。

なお、DNPは今回のGPIFの指数のほか、企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)への取り組みも評価基準に組み込んだ投資手法である

社会的責任投資(SRI)指標の、「FTSE4Good Global」、「DJSI Asia/Pacific」(スイス)、「MSCI ESG Leaders Indexes」などにも多数選定されています。



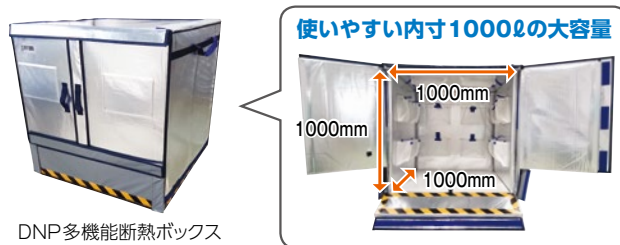
*¹ ロンドン証券取引所の100%出資子会社であるFTSE Russell社(イギリス)による日本企業に対応したESG総合型の株式指数。151銘柄が選定。

*² ニューヨーク証券取引所に上場し、世界で1000社以上が利用するMSCI社(アメリカ)のESGリサーチによる総合型指標、および多面的な性別多様性スコアによる指数。それぞれ251銘柄、212銘柄が選定。

【2017年6月16日発表】 DNPと郵船ロジスティクスが輸送サービスで協業

DNPと郵船ロジスティクス株式会社は、貨物を定温で国際輸送できる「DNP多機能断熱ボックス」に関する共同研究を重ね、多様な輸送形態に活用できるサービスを構築しました。このボックスの活用により、温度管理が必要な貨物の品質を維持したまま、国際一貫輸送することが可能となり、保冷梱包や冷蔵・冷凍専用のトラックやコンテナが不要になるなど、輸送効率の向上が見込めます。

DNPは真空断熱パネル*の特性を活かし、定温輸送に適した多機能断熱ボックスの開発を進めています。今回の協業で郵船ロジスティクスのグローバルな物流ネットワークを活かし、サプライチェーン・ロジスティクス(供給網と物流)の効率化を実現します。



DNP多機能断熱ボックス

*真空断熱パネル:グラスウールやウレタンなどの断熱材を高いバリア性を持つフィルムで包装し、真空状態で封止したパネル。通常の断熱材の約20分の1の薄さで同等の断熱が可能。電源を用いることなく優れた断熱性や気密性を確保でき、さまざまな輸送用途に適しています。

❖ 単元株式数の変更および株式併合のお知らせ

当社は、2017年10月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更し、2株を1株とする株式併合を実施いたしました。

今回の株式併合により、株主の皆様のご所有株式数は、10月1日をもって、2分の1となりましたが、株式市況の動向等の他の要因を別とすれば、株主の皆様のご所有株式の資産価値に変動はありません。株式併合後のご所有株式数については11月中旬にご通知申し上げます。

配当金につきましては、中間配当は2017年9月30

日現在のご所有株式数(株式併合前の株式数)に対して前期と同額の1株当たり16円、期末配当金は2018年3月31日現在のご所有株式数(株式併合後の株式数)に対して1株当たり32円(株式併合を考慮しない場合は前期と同額の16円)とさせていただきます見込みです。

株式併合に伴い、0.5株の端数株式が生じた株主様には、当社がこれを一括して処分し、その処分代金を12月中旬にお支払いいたします。(平成29年9月30日現在のご所有株式数が奇数の株主様が対象となります。)

アニュアルレポート、CSR報告書、データブック発行のお知らせ

アニュアルレポート2017

財務・非財務の資産を統合的に活かし、企業価値を高めていくDNPの活動について、トップメッセージや特集などでわかりやすく伝える年次報告書です。

DNPのウェブサイトでご覧いただけます。

- 日本語版URL
http://www.dnp.co.jp/ir/index_annual.html
- 英語版URL
<http://www.dnp.co.jp/eng/investors/library.html>



DNPグループCSR報告書2017

DNPはCSRを「社会から信頼される企業になる」ことだと捉えています。そのためのさまざまな取り組みについて、年次報告として、わかりやすく紹介しています。

DNPのウェブサイトでご覧いただけます。

- 日本語版URL
<http://www.dnp.co.jp/csr/index02.html>
- 英語版URL
<http://www.dnp.co.jp/eng/csr/report.html>

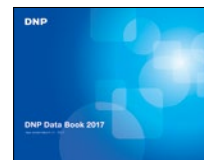


DNPデータブック2017

過去10年間の財務データや分析指標などを、表やグラフ等で見やすく掲載しています。

DNPのウェブサイトでご覧いただけます。

- 日本語版URL
http://www.dnp.co.jp/ir/index_data.html
- 英語版URL
http://www.dnp.co.jp/eng/investors/index_data.html



ディエヌペンギン 「DNPenguin卓上カレンダー」プレゼント

2018年版「DNPenguin卓上カレンダー」を株主の皆様へプレゼントいたします。DNPenguinは、広告をはじめ、ウェブサイトや展示会などでDNPの製品やサービスをわかりやすく紹介するオリジナルキャラクターです。

プレゼントご希望の方は、同封のハガキに、お名前、電話番号、ご住所、株主番号(同封の「送付票」右下に記載されている9桁の番号)を全てご記入いただき、同封の保護シールを貼付のうえ、ご返送ください。

- ※お送りするカレンダーは、お一人様1部、日本国内の発送に限定させていただきます。
- ※株主様ご本人のお名前でお申込みください。
- ※株主登録のないお名前でお申込みされた場合および記入項目に不備や空欄がある場合は、お届けできないことがあります。
- ※発送は2017年12月頃を予定しています。

お申込み締切 2017年10月31日(火) **当日消印有効**

※締切日にご注意ください。

お問い合わせ 「DNPenguin卓上カレンダー」プレゼント事務局
電話: 0120-300-054 (フリーダイヤル)

お問い合わせ受付期間: 2017年10月4日~2018年1月31日
(土・日・祝日除く10:00~17:00受付)
※2017年12月29日~2018年1月4日は年末年始休暇のため、お問い合わせ受付はお休みとさせていただきます。

<お申込み情報の取扱いについて>

ハガキにご記入いただきました情報は、「DNPenguin卓上カレンダー」のお届けに利用するとともに、2018年6月以降の株主総会に関するお電話でのご案内に利用させていただくことがあります。なお、この目的の実施のためにDNPのグループ会社に業務を委託する以外には、第三者へのお申込み情報の提供は行いません。DNPの「個人情報保護方針」につきましては、DNPウェブサイトをご覧ください。

大日本印刷株式会社 個人情報保護方針URL
<http://www.dnp.co.jp/about/privacy.html>

大日本印刷株式会社 コーポレートコミュニケーション本部 IR室
個人情報取扱責任者 コーポレートコミュニケーション本部 IR室長



縦 約14cm×横 約19cm 紙製カレンダー

デザインは変更になる場合があります。ご了承ください。

同封のハガキ

株主番号をご記入ください

送付票
右下



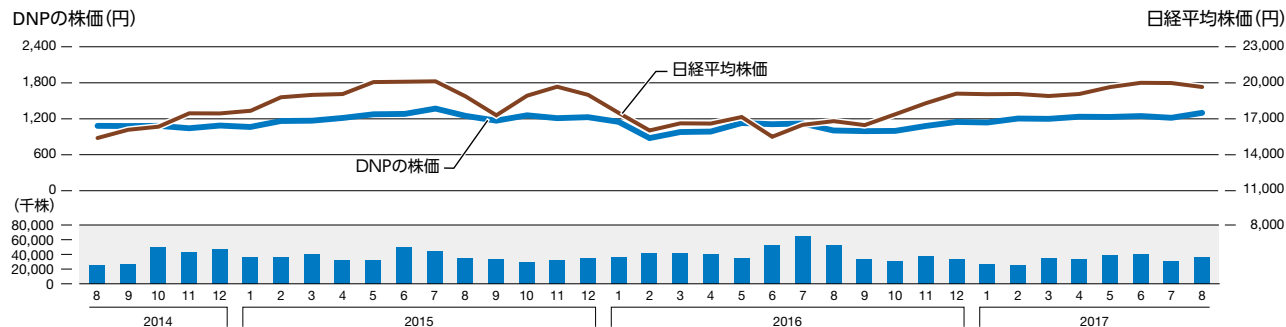
会社概要

商号：大日本印刷株式会社
 英文社名：Dai Nippon Printing Co., Ltd.
 本社所在地：東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 電話：03 (3266) 2111 (総合案内)
 ウェブサイト：http://www.dnp.co.jp/
 創業：明治9年(1876年)10月9日
 設立年月日：明治27年(1894年)1月19日
 資本金：1,144億6,476万円



東京2020オフィシャルパートナー(印刷サービス)

株価 / 出来高の推移



CONTENTS

株主の皆様へ	2
特集:有機ELディスプレイの製造を支えるメタルマスク	6
第1四半期決算のご報告	10
ピックアップニュース	12
プレゼントのお知らせ	14
会社情報	15



表紙：有機ELディスプレイのイメージ

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。

※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。(当社のウェブサイト http://www.dnp.co.jp/ir/) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するご案内

1. 住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 一般口座(証券会社の口座)にある株式
株主様が口座を開設されている証券会社の本店
- 特別口座(みずほ信託銀行の口座)にある株式
(お問い合わせ先) みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
(お手続き窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ証券 本店および全国各支店
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)

※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申し上げます。

2. 未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

- (お支払窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)
みずほ銀行 本店および全国各支店
- (取次所) みずほ証券 本店および全国各支店
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)

※ 単元未満株式に関するお知らせ

100株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(100株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買取請求につきましても、お取り扱いしております。

- DNP Report に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社

コーポレートコミュニケーション本部 IR 室
〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
TEL: 03-3266-2111 (総合案内)



この報告書を印刷する際の電力(1,100kWh)は、自然エネルギーでまかなわれています。



この印刷物は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認証されました。